



特集

先輩パパママに聞く
児童期の本当のところ。

说得力
かがうね!

vol.
22

ヤマハ音楽教室幼児科
保護者向け情報誌

MESSAGE
FROM
PURATOMO

⑥



ヤマハ音楽教室の願い

幼児科では「聴く」「歌う」「弾く」、この3つのことを大切にしています。音楽を自分の中に取り込むためにはまず音を耳でしっかり「聴く」こと、そしてそれを真似して「歌う」ことが大切です。それができてはじめて「弾く」こともできるようになります。楽譜を読むようになることよりも、まずは「音感」とよばれる、音楽を聴き分けることのできる耳を持つこと。幼児科では、まずこのことを大事にしています。

ぶらトモってなあに？

みなさん、こんにちは。「ぶらトモ」は幼児科のお母さんお父さんたちと身近になりたい、仲よくなりたいという想いで2014年に発行されました。「『ぶらいまりー』のともだち」だから略して『ぶらトモ』です。よろしくお願いします！



楽器は、弾けば弾くほど
楽しくなるもの

PRIMARY
FRIENDS
OB&OG
INTERVIEW

ヤマハ音楽教室
OB&OGインタビュー

上原ひろみさん

作曲家・ピアニスト

ヤマハ音楽教室で
まさかの退場勧告？

6歳上の兄がヤマハに通っていたのが音楽との出会いのきっかけだったという上原さん。「歌うことが大好きで、幼児科に通う前、母と一緒に兄のグループレッスンを見学していたところ、兄のクラスの子たちよりも大きく歌を歌って、退場になったことも」と笑います。幼児科に通い始めますが、それは習い事というよりも遊びに行くという感覚だったとか。そして小学校からは、ジュニア専

門コースに進みます。「ヤマハは発表会があったので、演奏を披露するのがとてもうれしかった」とも。

自分で作った曲を弾くという達成感、家族や親せきの前でピアノを弾くと、みんなが喜んでくれることが励みになり、ピアノがどんどん好きになりました。小学6年生の時、JOC（ジュニアオリジナルコンサート）で台湾に行き、オリジナル曲を演奏。自分の演奏でお客さんが笑顔になるのを見て「言葉は通じなくても、音楽ではコミュニケーションを



HIROMI UEHARA

*

1979年生まれ。静岡県浜松市出身。4歳より幼児科に通い、JOCコンサートなどにも何度も出演。8歳の時ジャズに、中学高校時代にはロックにも親しみ、20歳でパークリー音楽大学へ留学し首席で卒業。在学中にプロデビューを果たし、ニューヨーク・ブルーノートでの13年連続公演、2016年アルバム「SPARK」が全米ビルボード・ジャズ部門で1位になるなど、作曲家、ピアニストとして活躍中。



2019年9月に10年ぶりのピアノソロアルバム、「Spectrum」発売。

とることができると感じ、その後アメリカ、チェコスロバキアなどで演奏するたびに「音楽は国境を越える」ということを実感し続けたそう。

機が熟すのを待ち、
大学を中退して米国留学

「人生はまるでロールプレイングゲームのように続いている」とも語る上原さん。

「つまり『ピアノを弾くことを覚えた』『作曲をすることを手に入れた』みたいな感じですよ。8歳でジャズに出会った時も、また新しいアイテムを手に入れた、という感覚でした」。

高校では軽音部に入部、ここでは「ロック」というアイテムを手に入れますが、大学は、東京の大学の法学部に進学。

「音楽は続ける意思はあったものの、音大に進まなかったのは、

自分が猛烈に勉強したいという意識がないと、吸収できるものもできないなと思ったから。今ではないと思ったのです」。

大学進学後は、ライブ演奏をしたり、CM音楽制作の仕事をするなかで、作曲を勉強したいという気持ちが高まり、ヤマハの音楽支援制度の奨学金でパークリー音楽大学へ留学。

在学中、期末試験の課題で編曲した作品を提出したところ、先生が友人のピアニスト、アーマッド・ジャマル氏に作品を聴かせたのがきっかけとなり、世界デビューが決定しました。

まるでシンデレラストーリーのように聞こえますが、「留学中は、誰よりも早く練習室に行き、誰よりも遅く帰っていた自負があります」と上原さん。

「いつチャンスが来ても、どんな角度からでもジャンピング

キャッチできるぐらいのやる気とハングリー精神で、毎日を過ごしていました」。

それはまるで、「ずっと土を耕し、毎日水をまき、やっと芽が出たところをさっと刈り取った」と上原さんは例えます。

子どもが練習しないのは、
世界共通の親の悩み!?

10年後の目標は「とにかくピアノを弾き続けていること」という上原さん。

「地味なことに聞こえるかもしれませんが、これ以上の野望はありません。毎日弾き続けることが、ライブやその先につながっていくんです」。

保護者へのアドバイスを伺うと、「世界中で『どうしたらうちの子は練習しますか?』と聞かれますが、答えは1つではないですよ」と言いながらも、

「その子が、音楽の何が好きなのかを見つけることかな」とも。

上原さんが好きだったのは「発表会」。とにかく誰かが自分の演奏で喜んでくれるのがたまらなくうれしかったそうです。

「今も作曲中は、目の前で聴いてくれているオーディエンスがいる風景がばーっと出現すると、それがその曲が完成したサインなんです。聴衆がいるというのはとても大きなことです」。

さらに、「できる限り素晴らしい演奏に触れさせることも大事」とも。上原さんも、小さい時にコンサートに行き、「こう弾けたら」「この曲が弾いてみたい」という記憶が残っているとか。

「親御さんには、必ず『More you play, More fun it gets(弾けば弾くほど楽しくなる)』と言っています。これは本当です」。

先輩パパママに聞く

児童期の本当のところ

幼児科2年目のみなさんは、
そろそろ進級コースのことを考える時期。
児童期2年目以降の先輩に、
今のコースを選んだ理由などをお聞きました！



ADVISOR



神奈川県 山響楽器店
五十野裕子先生

座談会では愛のあるアドバイスに参加者のみなさんも納得。「長く続けると、音楽の楽しさはもちろん、挑戦する気持ちや乗り越える力も身につきます。ぜひ音楽を通して素敵な時間を過ごしてほしいですね。」



相澤 剛さん・悠希さん
神奈川県/ジュニアエレクトーンコース



安田千歩さん・絢音さん
大阪府/ジュニア総合コース



西田友理さん・佳歩さん
神奈川県/ジュニアアンサンブルコース



佐藤礼子さん・圭さん
東京都/ジュニアピアノコース



松川麻衣子さん・菜々子さん
愛知県/ジュニア専門コース

教えてくれたのは…



パパママ 座談会

コース選びの本当のところ

コース選びの決め手になったのは…

安田さん 現在はジュニア総合コースに通っています。ジュニアアンサンブルコースと迷ったのですが、幼児科のときのクラスのメンバーとほぼ同じメンバー、さらに同じ先生が担当してくれることが判明して、

総合コースに決めました。

知っているお友達が一緒の方が子どもも安心するし、先生も親たちより子どもたちのことが分かっているのかなと。2歳から通っているのですが、おんがくなかよしコースから先生がずっと同じなのです。

松川さん どのコースにするかは、レッスンの曜日も気にな

りませんでしたか？

安田さん それもありますよね。たまたまグループレッスンの日と個人レッスンの曜日が同じになったのもよかったです。

西田さん 現在はアンサンブルコースに通っています。ジュニア専門コースは、

「放っておいても自分でどんどんやれる子」というイメージがあって。うちはそういうタイプではないし、楽しく音楽と親んでもらえればいいかなと。子どもの性格にもよると思いますが、個人レッスンだと先生

と1対1で黙々と取り組む感じがあつて、子どもがプレッシャーを感じそうだなと。みんな楽しんで合っていると思う、グループレッスンだけのアンサンブルコースにしました。



安田さん 進級コース選びはもちろん、幼児科時代の本人の様子も決め手だったので、具

子どもと先生の

信頼関係を優先

(安田さん)



体的に本人に意見は聞いたりしませんが、本人が割と「あれもこれもやりたい」というタイプ。スイミングもサッカ―も剣道もそろばんもやりたいと。

西田さん 聞きませんでした。最近「アンサンブルで難しい曲をみんなで弾くのと、一人で得意な曲をどんどん弾いていくのとどっちがよかった？」と、ちらつと聞いたら「どっちも楽しい」みたいな返事でした。

当時も今も、本人にあまり強い意志はないと思います。この先、何か本人から「こうしたい」と言われたら軌道修正をしていこうとは思っています。

相澤さん うちがジュニアエレ

クトーンコースに通っているのですが、本人が割と「あれもこれもやりたい」というタイプ。スイミングもサッカ―も剣道もそろばんもやりたいと。



グループと個人の両方がある

コースだと、週に2回ヤマハに行くことになるかも。それはちよつと厳しいかなということ、うちの子と合いそうなエレクトーンの先生がいたのもあつ

生活リズムに合わせて (相澤さん)



当時は1つ下の妹もヤマハの幼児科に通っていて、本人はバレエなどほかの習い事もある。しかも名古屋市内の中心にある会場まで車での送迎というのが私にはかなり負担で。でも本人が、「こういうコー

本人の意志があまりに固くて

(松川さん)



て、その先生に個人で週1回習おうと、本人も親もあまり悩まず決めました。
松川さん うちがジュニア専門コースに通っているのですが、実は小学校からは、自宅近くの個人の教室に変わろうかと思っていたのです。

スがあるよ」って幼児科の先生に声をかけていただいて、説明会にいったら「絶対J専に行きたい」と。「どうしてもやらせてほしい」と幼稚園児にお願いされて、そんなに言うんだったらということ、J専に通っています。

安田さん 小学校に行くようになって生活も変わるから、本人も大変ですよね。

松川さん コースのメンバーもがらつと変わったし、本人も最初は緊張していたみたいですが、知らない子同士だったのが逆に

よかったみたいで、今はクラス全体がすごく仲良しです。



親子でペースを作る必要も:

西田さん 小学生になっての新生活は、親の方が慣れるのに大変でした。仕事から帰宅して、ご飯を用意して食べさせて、

宿題やらせて、お風呂に入つて。今はお風呂に入る前に練習する、というリズムができていますが、1年生のころは、私の方が本当にへとへとになっていました。

佐藤さん すごくよくわかります。私もそうでした。いつも「早く、早く」って言っていました。

ただうちの子は年長のときから幼児科を始めて、小学2年生のときにジュニアピアノコースに進みました。個人レッスンを希望したのは本人の希望です。

本人の意志を尊重しました

(佐藤さん)



うにしたのです。そしたら楽になりました。



ただ宿題でもピアノでも、家であまりに練習しないときは「やらないなら、レッスンでも先生に正直に『できませんでした』って言ったら」というと逆に頑張りだすというか。

親も子どもの様子を見ながらうまくのせることって大事だになって、最近はその通りです。

楽しく長く続けてほしい

(西田さん)



佐藤さん はい。ある時から、がみがみ言っている自分にも疲れてしまつて。本人だつて学校でもいろいろあるだろうし、学校にもヤマハにも元気に行っているならそれでいい、と思うよ

児童期のコースは全部で5コース

幼児科から児童期へ

児童期は、幼児科で学んだ音楽の基礎力（音感や鍵盤演奏力など）を

本格的に伸ばしていく時期。心身ともに急速に

成長する時期でもあるので、一人ひとりの能力や希望にあわせて、

より音楽を楽しむための実践的な力を育てる5つのコースがあります。

児童期のレッスン内容は3通り

グループレッスン

個人レッスン

グループレッスンと個人レッスンの併用コース



ゆったりしたペースで力をつけるコース
ジュニアアンサンブルコース **グループ**
グループレッスンのみのコース。レパートリーやアンサンブルなどを通じて、総合音楽力をゆとりある進度で伸ばしていきます。

個人またはグループでのレッスンが選べるコース。エレクトーンならではの多彩な音色を操作しながら、豊かな表現力とアレンジ力を身につけていきます。

エレクトーンを学ぶコース
ジュニアエレクトーンコース **個人またはグループ**

ピアノを個人で学ぶコース
ジュニアピアノコース **個人**
個人レッスンのみのコース。マンツーマンで、ジャンルを超えた幅広いレパートリーを学びつつ、確かなピアノの演奏力とアレンジ力を身につけていきます。

総合音楽力を伸ばすコース
ジュニア総合コース **グループ+個人**
グループレッスンと個人レッスン（月1回、2回、3回から選択）の併用で、総合音楽力をさらに伸ばし、鍵盤演奏力、アレンジ力を磨いていきます。

より高度な力を身につけるコース
ジュニア専門コース **グループ+個人**
専門的な教育を受けた人のためのコース。グループレッスンと個人レッスンの併用です。演奏・創作ともにハイレベルな音楽力を身につけていきます。進級のためのオーディションがあります。

上記のコースに加えてオプションレッスンもあります

上記5コースに更に個人レッスンを追加できるのがオプションレッスンです。演奏力向上やグレードの取得などに対応します。*各コースの開設状況は、会場によって異なります。

両立をがんばっています。

ジュニアアンサンブルコース 西田佳歩さん（小2）



児童期の今は、「幼児科と比べて歌ったり踊ったりが減ったけど、あまり変わらない感じ。ただ学校の宿題とかもあるから忙しい気がします」。スイミングにも通っていて、その会場とヤマハの場所が近いのは便利とのこと。

作曲は 大変ですが 楽しいです。

ジュニア専門コース
松川菜々子さん（小2）



楽譜を読んだり弾いたりするのも楽しいけれど「曲を作るときが一番楽しい」。発表会やコンサートのような「目標があるとやる気が出てがんばれます」とも。幼児科時代の一番の思い出はレッスン中でのクラスコンサート。



本人たちのリアルボイス



本当のところを聞いてみた!

大好きなアニメの曲が弾きたい!

ジュニアエレクトーンコース 相澤悠希さん（小3）



毎日習い事で大忙しで、なかなか家での練習時間が取れないのがちょっと悩みだっていますが、「エレクトーンを弾くことは大好き」で、弾きたい曲があるので、頑張っています。将来の夢は、「アナウンサー」だそう。

幼児科時代の曲を 今も弾いたり。

ジュニア総合コース
安田絢音さん（小2）



幼児科で習った「みつばちマーチ」がお気に入り。今でも自分でアレンジしたりして弾いています。児童期は、「グループレッスンも個人レッスンも楽しい!これからも弾ける曲をどんどん増やしていきたいです」。

先生に質問が しやすいです。

ジュニアピアノコース
佐藤圭さん（小3）



みんなの前で弾くのはいいけれど、「歌ったり踊ったりがちょっと...」。今は先生との1対1のレッスンなので、わからないことは何でも質問できるのがいいところだそう。バレエ、水泳、書道も習っていて夢は「バレリーナ」。



THE WORLD OF
CHILDREN'S SONGS
"ふしぎなポケット"
ILLUSTRATED
BY
HIROYUKI ARAI

SCORE

"ふしぎなポケット"

作詞：まどみちお
作曲：渡辺茂
編曲：清澤久恵

メロディー

♩=94

F 3 Caug F 1 D7

mf

伴奏

mf

Gm D7 Gm G7 C7 2 F

JASRAC 出 1910842-901

How To Play こうやって 遊ぼう！

ポップなイラストで人気の絵本作家、
新井洋行さんによる描き下ろしのイラストです。
ポケットにビスケットが入っているのを
想像しながら、歌ったり弾いたりしてみましょう。

LYRICS

"ふしぎなポケット"

ポケットの なかには
ビスケットが ひとつ
ポケットを たたくと
ビスケットは ふたつ

もひとつ たたくと
ビスケットは みつつ
たたいて みるたび
ビスケットは ふえる

そんな ふしぎな
ポケットが ほしい
そんな ふしぎな
ポケットが ほしい

PURATOMO SQUARE
ぶらトモひろば

「ぶらトモひろば」では、全国の生徒のみんなや、お母さん・お父さんたちからのすてきなお便りを紹介したりヤマハ音楽教室にまつわる素朴な疑問に一生懸命答えたりするよ。もっとわたしたちのことを知ってほしいから。

恥ずかしがりの性格だったのですが、ヤマハを始めてからは、お友達と歌う楽しさを知り、元気に歌ったり、自ら発言したり。少しづつ積極的に変化してきたようで、うれしく思います。(東京都 こゆさん)

大きな声で歌えるね!



練習時、うまく弾けると、毎回私が動画を撮るようにしています。うまく弾けなければ、何度も撮り直して! とお願いされます。娘なりの芯の強さがでてきたので上達につながればいいなと期待しています。(和歌山県 ヒロさん)

撮り直しもへっちゃら!



幼児科に通う娘の付き添いのおかげで、エレクトーンもピアノも未経験の夫が、次第に力をつけてきました。もう一人分受講料を払わなくては? と思うほどで、夫

も私も楽しませていただいています。(東京都 あつぴんさん)

パパと連弾できるかな



娘が幼児科2年目で初めて短調の和音を習いました。「短調ってどんな雰囲気だった?」と聞くと「ひとりでバスに乗ってるような感じ」と。

不安な感じや心細い感じが、すぐく伝わり、発想力に驚きました! (神奈川県 イズナミさん)

イマジネーション
伝わるね



ヤマハに通うようになってから、できないことでも取り組んでみるという姿勢を身につけてくれていくみたいで頼もしいです。(愛知県 うめさん)

前向きに頑張ってる!



MY DEAREST FAMILY
ぼくの私の
大好き
ファミリー

全国のファミリー募集中!



今回は、「大好きパパ」ならぬ「大好きじいじ」の登場! 20代後半からエレクトーンを習い、今は、趣味でハワイアンバンドでギターを担当している奈良県在住の奥長生さん(70歳)。その後はピアノも習い、今でもビートルズの曲などを弾いているそう。孫の奥玲音くん(6歳)は幼児科2年目。「着実に力をつけていると思います。音楽は人生に必要不可欠なもの。このまま成長を見守りたい」と語ります。

Q & A ABOUT YAMAHA
ヤマハ音楽教室
にまつわる
そぼくな疑問



Q. エレクトーンを

自宅で練習しているとき、テンポを速めて何度も弾きたがります。

(愛知県 はるけみママさん)

A. タイミングをみながらCDと同じテンポでも弾くように声かけを。

テンポを変えて弾くことを楽しんでるようでしたら、まずは気持ちよく弾かせてあげることが大事です。ただし、幼児科では、聴いたものを歌い、それを歌った通

Q. 弾く時の指の形が丸くできません。

どうすればいいですか?

(東京都 なつのはなさん)

A. 手の成長も必要なので、長い目で見つつも意識をさせてあげて。

手の形ばかり注意してしまうとお子さんの「弾きたい」という意欲が薄れてしまうことがあります。お子さんの手は、身体の成長とともに大きくなり、幼児科1年目

聴いた速さで弾いてみよう



りに弾くことを通して、テンポ感を養っています。タイミングを見て、「歌うのと同じ速さで弾いたのも聴きたいな」「CDに合わせて弾いてみたか?」といった声かけをしてみてください。

ではなかなか届かなかった和音も、2年目では軽々と届くようになってたりするものです。手の形は、注意してもすぐに直すことは難しいもの。長い目で見つつ、意識しながら練習することは大切なので、自宅では、先生のアドバイスを思い出しながら練習してみてください。

成長を見守って!



ご意見・ご感想
お気軽にお問い合わせください

ヤマハ音楽教室 お客様コミュニケーションセンター

0570-075808

月曜～金曜 9:30～17:30 (祝日・年末年始・夏季休業を除く)

※「ヤマハ音楽教室ホームページ」からもお問い合わせを受け付けています。

INFORMATION

「ぷっぷるのおへや」に
遊びにきてね♪

Webサイト「ぷっぷるのおへや」では、ぷっぷるとおともだちファミリーを大公開中! 楽しく遊べる動画や毎月更新の壁紙ダウンロードの他、LINEスタンプも。さらにお名前シールやマグネットなどぷっぷるグッズを購入できるページもありますので、ぜひ遊びに来てください!



ぷっぷるが
たくさん!



<https://pupple.yamaha-ongaku.com/>

<https://pupple.yamaha-ongaku.com/goods/>

HAND CRAFT

f 作ってみよう！

[第二回] クリスマスツリー

2回目の今回は切って、折って貼って作るクリスマスツリー！ぜひ作ってみてください！

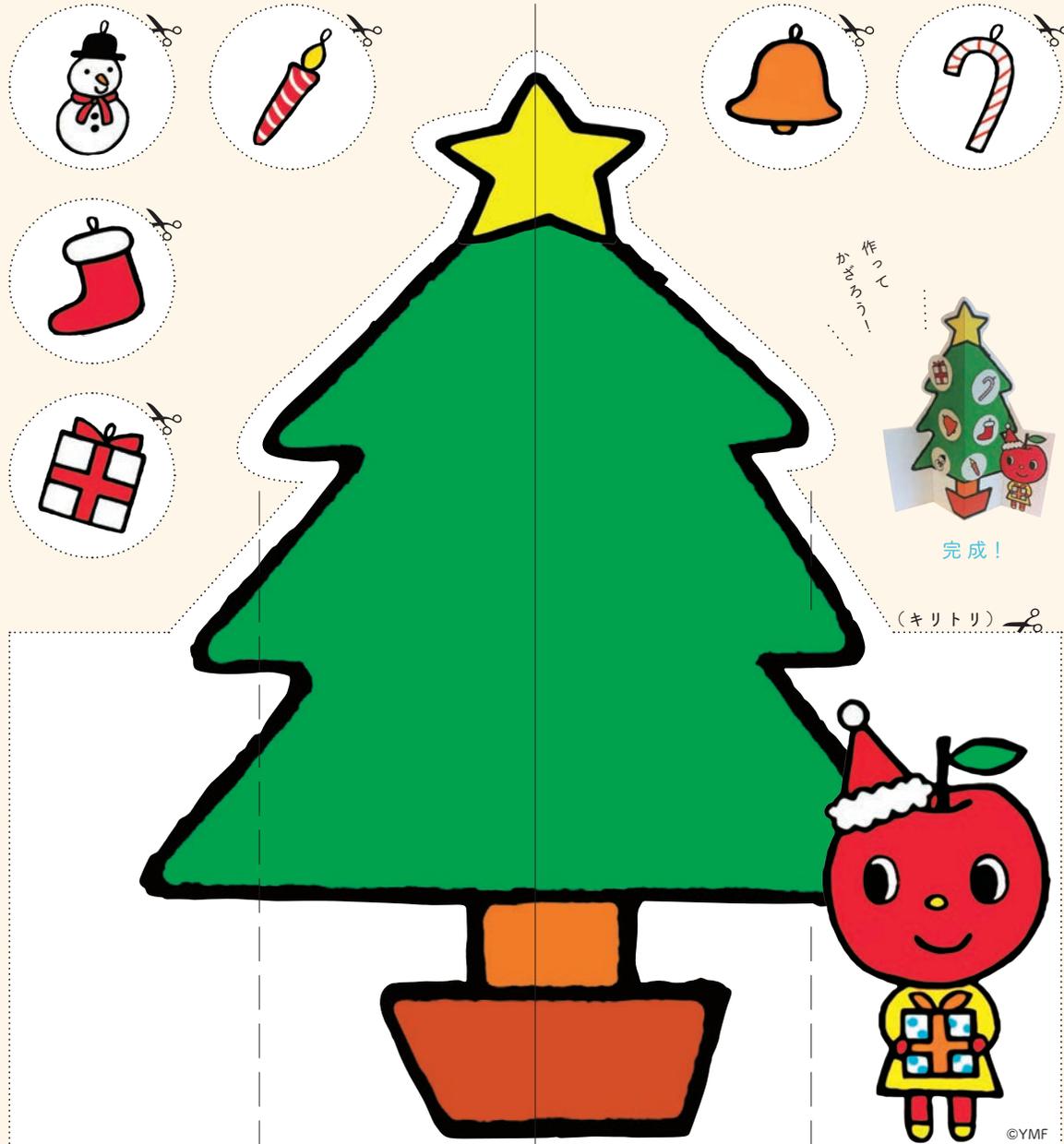
<作り方>



1 ツリーや周囲のオーナメントを点線に沿って切り取ります。



2 ツリーを折り、オーナメントをのりで貼り付けます。



(谷折り)

(山折り)

(谷折り)

©YMF

ONPYU STORY

おんぴゅだよ

作：やばい



作：やばい

主婦。6歳の男の子のママ。漫画『おしゅじだよ』(KADOKAWA)が話題に。

SCHOOL MATES

おじゃましました！

隣のヤマハ音楽教室



西村楽器 北バイパスセンター

宮崎県宮崎市花ヶ島町榎ノ木350番

今回は
宮崎県！

今回は、南国情緒の漂う宮崎県宮崎市の幼児科1年目、6名のクラス（当日は1名欠席・最前列と後列の左は生徒の姉妹）を訪問。「音楽が大好きということがよく伝わってくるクラス」だそうで、レッスンでも元気いっぱい！家でもCDをよく聴いている子が多く、レッスンでも自然と歌が出てきます。「子どもたちに負けなぐらいテンションを上げて、一緒に音楽を楽しんでいます」とは新見梨紗先生。レッスンでは、一人ひとりの体調や気分をよく見るようにし、様子によって声のかけ方を変えているそう。「成長をそばで感じられることが、一番のやりがいです」。



(上)会場はとても広々！
(下)青島の「鬼の洗濯板」。



TEACHER'S
COMMENT

新見梨紗先生

自身もヤマハ出身。大学は教育学部で音楽を専攻。卒業後は教員への道とヤマハの先生とに迷いながらも、憧れだったヤマハの先生に。「講師になり11年目。生徒さんたちとは、音楽を介してできたご縁をずっと大切にしていきたいなと思っています」。

HUMOROUS POEM

おもしろヤマハ川柳

*

テーマ

「子育てあるある」



やってみる！

やっぱりできない！

でも挑戦！

京都府 わさびさん

兄は笛

妹ピアノで

ドレミファソ

愛知県 ママリんごさん

教室の

ぷっふる見ると

いつもハグ

東京都 こねぎさん

編集後記

最近「あかぎれ」を経験していません。子どもの頃、冬にピアノを弾いたらあかぎれが裂けてすごく痛かった記憶があります。(アートディレクター 寄藤文平) / 「あかぎれ」といえば、子どものころは「しもやけ」にも悩まされました(北海道出身なのもあり)が、今は存在しているのでしょうか…。今の子どもたちは知らなさそう。(編集&ライター 長谷川華) / 前号からスタートした工作コーナー。お子さんと一緒に楽しんでいただけたらうれしいです。私も一足お先にクリスマスツリーを作り、デスクに飾っています。(ヤマハ音楽振興会ぶらとモ編集部F)

ぶらとモ Vol.22 2019冬 令和元年12月20日発行 通算22号

特集イラスト：米村知倫

撮影：武藤章(上原ひろみさんインタビュー部分)

ヒロミナ(特集部分)

工作制作：丸林佐和子、石川聡(イラスト)

アートディレクション：寄藤文平

デザイン：三浦裕一朗、村瀬良、周佐直彰(Mo-Green Co.,Ltd.)、

古屋郁美(文平銀座)

文：下関崇子、長谷川華

企画・編集協力：孫のクリエイティブ(株式会社トド・プレス)、

長谷川華

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：一般財団法人ヤマハ音楽振興会

〒153-8666 目黒区下目黒3-24-22 ☎0570-075-808

発行人：大池真人

次号は
3月発行です



WANTED

『アンケート&お便り』募集！

『ぶらとモ Vol.22』の記事について、みなさんのご感想、ご意見を募集中です。『ぶらとモ』を一緒に作ってくれる「ぶらとモ隊」への応募もこちらから！

1. ヤマハ音楽教室や
子育てに関するエピソード
2. ヤマハ音楽教室にまつわるそばくな疑問
3. ぼくの私の大好きファミリー
4. 子育てあるある川柳

を募集しています。

応募は以下のアドレスか QR コードから。

<https://jp.research.net/s/KBFPBST>

(応募は2020年2月末日まで)



全員に素敵な
ハンダナプレゼント

抽選で10名様に
身裁計マグネットをプレゼント



【個人情報について】

いただいたお名前、ご住所、ご連絡先などは、誌面掲載のご連絡やプレゼントのお届けに必要な情報の確認に使用し、その他の目的では使用いたしません。